

原

拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願 2001-354448
起案日 平成16年 1月16日
特許庁審査官 川端 修 8718 3V00
特許出願人代理人 石田 敬(外 4名) 様
適用条文 第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1-11
- ・引用文献番号 1-3
- ・備考 引用例1、2には、往復動式モータが開示されている。引用例3には、複数の巻線コイルを備えることが開示されている。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開2000-166189号公報
 2. 国際公開第00/62406号パンフレット
 3. 特開平3-107360号公報
-

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC第7版 H02K 33/00

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、又は面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

整理番号:B017426 発送番号:016756 発送日:平成16年 1月20日 2/E

特許審査第2部 自動制御(電動機制御) 川端 修

TEL. 03(3581)1101 内線3356 FAX. 03(3501)0671

特願 2 0 0 1 - 3 5 4 4 4 8 の拒絶理由通知に対するコメント

1. 本願の発明と第 1 ～ 3 の引用例との比較について

引用文献には審査官の指摘の基本的な内容については記載されています。

(1) 請求項 1 : 引用文献 2 に、類似の構成を有するリニアモータ（実施例 2、図 3）、及びで複数のアウターコア（9 4）を備え、コア間に磁気絶縁部材（9 8）を有する例（実施例 7、図 1 6）が記載されていますが、コアが周方向に分割されている点が本願発明の場合と異なります。

また、引用文献 3 に、2 つの単一コア（環状の第 1 ステータ 3 0 と第 2 ステータ 4 0）間に環状スペーサ 5（非磁性体）が備えられる構成が記載されていますが、インナーコアを備えていない点が本願発明と異なります。

(2) 請求項 2 : 引用文献 3 の 3 頁、右上欄、4 ～ 9 行の記載と類似します。

(3) 請求項 3 ～ 7、9 ～ 1 1 : 引用文献には記載されていないと思われます。

(4) 請求項 8 : 磁気絶縁部材が「円形のリング状に形成される」ことは引用文献 2 に記載されています。

2. 拒絶理由通対する対処について

(1) 請求項 1、2、8 : 上記の 1 項 (1) に述べましたような引用文献との差異をより明確にするために、例えば、

(a) 単一コアはそれ自体励磁コイルを備えた電磁石を構成するコアであること、及び複数の単一コアが軸方向（移動方向）に配列されていることを請求項で規定する、

(b) 引用文献 3 の上記のステータ構成の考えは引用文献 2 のリニアモータのアウターコアには適用できない理由を主張する、
ことが必要なように思われます。これらにつきまして（特に上記の (b)）ご教示ください。

(2) 請求項 3 ～ 7、9 ～ 1 1 に記載の発明につきましては引用文献に記載されていませんので、そのまま維持できると思われます。

従いまして、請求項 1 に係る本願発明を維持することが困難とお考えの場合は、これらの請求項を請求項 1 に含めることが考えられると思われます。

3. 以上のような理解が正しければご参考にしていただき、拒絶理由を克服するための請求項の補正及び（或いは）意見書の内容につきまして、具体的にどのようにすればよいかご教示、ご指示下さい。

以上